

# 健康関連データを一元管理することが健康経営を成功に導くカギになる

「心身ともに健康で、生き生きと働くこと」――。

健康経営について語り合う医療系大学の学長による対談の前編では、健康経営の本質は働きがいにあることをメッセージとしてお伝えした。

後編となる今回は、教育界の健康経営にはどのような課題があるのか、また健康関連データを一元管理することによるような意義があるのか、愛知みずほ大学 学長の佐藤祐造氏と、愛知医療学院短期大学 学長の石川清氏の対談を通して考えたい。

愛知みずほ大学 学長  
名古屋大学名誉教授

佐藤祐造氏

愛知医療学院短期大学 学長  
名古屋第二赤十字病院 名誉院長

石川清氏

## 大学版健康経営で教育のレベルアップを

――前回、石川学長は教育界でも健康経営を広めていくとお話しされていましたが、どんなところに課題があるのでしょうか。

**石川** まず教職員の健康管理です。病院と同じように、過重労働をしている教職員がいますが、十分な対応がとられていません。それが問題であると認識していないところが問題です。健康に対する意

識が低いんですね。

典型的なのは敷地内の喫煙です。2年前に大学を訪れたとき、医療系の短期大学なのに教員がタバコを吸っていて学生も一緒になって吸っている。これは医療界では考えられない状況でした。

**佐藤** 愛知みずほ大学は「健への探究」をカレッジモットーに、人生100年時代に求められる健康寿命の延伸に貢献できる、心と体の健康のスペシャリストを養成しています。これはカレッジモットーの実践でもあります。だからこそ「紺屋の白袴」ではなく、教職員の心と身体

の健康状態を維持することが重要であると考えています。私自身は50年近く教員として勤めていますが、意識して働き方を変えてきました。以前は遅くまで研究を行っていましたが、最近は早起きをして大学に早く来て、昼間に集中して働き、早く帰宅するようにしています。自分が率先して早く帰れば教職員が帰りやすくなるという狙いもあります。

**石川** 私は今年4月から学長になり、健康経営を全面的に掲げて押し進めるとい

う方針を打ち出しました。真っ先に敷地内を全面禁煙にし、禁煙教育のスライドをつくって教職員に配布しました。今後は勤務時間の管理から始めて健診結果のデータやストレスチェックなどのデータを一元管理し、自分でセルフチェックできるように体制を整えていきます。

教職員から始めて学生まで広げて、食生活や運動習慣の改善を教育の中で進めていきます。医療系の大学であり、将来は医療系の仕事に携わっていくことになるので、学生のうちから意識付けすることが大事だと思っています。

ホワイト企業が採用活動に有利なように、ホワイト大学として認知されればイメージアップにもつながり、学生募集の面でも有利に働くはずですよ。

**佐藤** 大学の教員の場合、時間的な余裕があれば思考力が発揮され、よりよい教育や新しい研究を発想することもできます。健康経営が企業を元気にさせるように、大学も元気になるのではないのでしょうか。

客観的に管理することで意識は確実に変化する

――健康経営を進めるうえでデータを管

理するツールの存在は大きいとお考えでしょうか。

**石川** 教員の仕事は個人の裁量に委ねられている部分が多く時間管理が難しいため、データを一元管理することが重要です。総合的にデータを見ることができるようになって初めて意識も変わってきます。

そのためにはツールが重要な役割を担ってきます。最初はトップダウンで進めていって、使われるようになって初めて意識が変わってきます。そういう方向に向けるためにも、管理者がはっきりと明言して取り組む風土をつくっていく必要があります。

**佐藤** 私は日通システムの「ヘルスマライフ」を監修したのですが、なかなかよくできたツールだと思います。歩数や睡眠時間などの日常生活のデータを入力すれば、いろいろな角度から健康状態が自動で診断されます。

そこで異常がなければ従業員自らがワークライフバランスを推進し、異常があればより精密な健康診断を実施したり、専門医を紹介するなど、早期発見、重症化予防につなげられます。企業とし

ての組織分析、個人の改善指導も行われて改善サイクルが形成される仕組みになっているところが素晴らしいと思います。長く使っていれば、さらに大きな効果が期待できます。

**石川** 学生に対するストレスチェックを行っている大学はほとんどないと思いますが、ぜひ取り入れたいと思っています。それによって問題の発生を未然に防ぐことができます。そういうデータも含めて健康関連のデータを一元的かつ総合的に把握できることには大きな意味があると思います。

来年4月には、こども園も開園します。子どもの管理にもこのツールが使えるのではないかと考えています。親御さんに対するアピールにもなるはずですよ。

**佐藤** それは効果がありそうですね。私は糖尿病、肥満、老化と運動療法に関して40年以上研究を行ってききましたが、健康の維持増進には、適切な食生活、適度な運動に加えて、知的な活動が必要です。

私自身も食事や運動に加えて、講演、論文執筆、学長業務など知的労働を続けていることで後期高齢者でも元気に生活

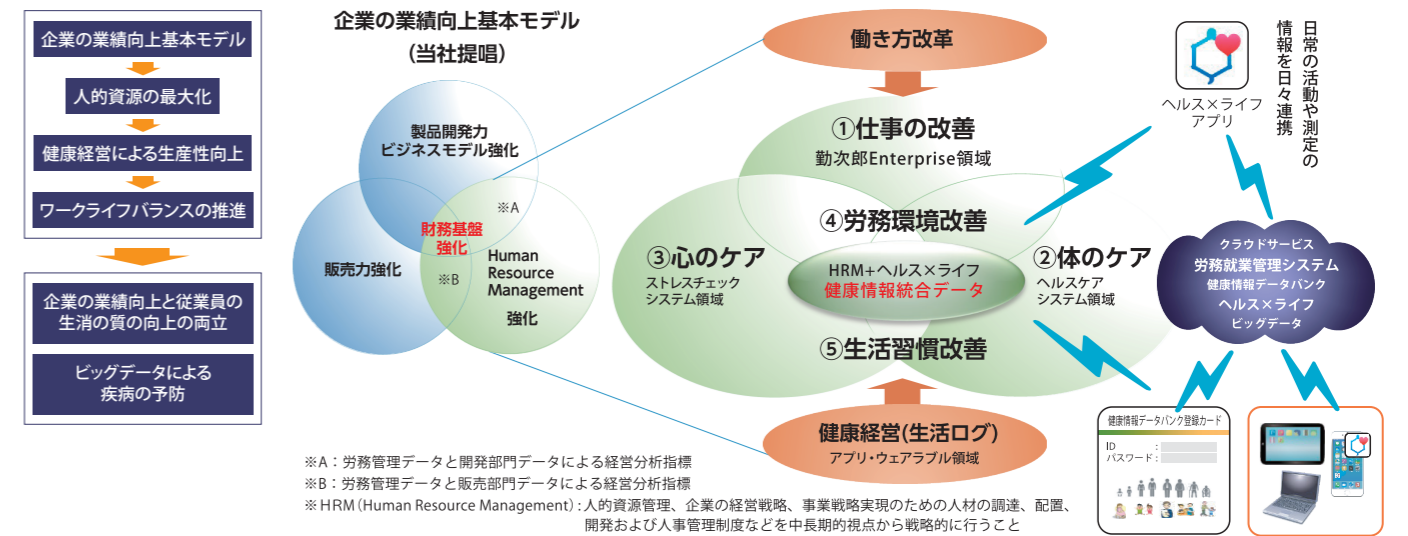


愛知医療学院短期大学 学長 石川清氏

できています。身近に健康の状況が分かるツールがあれば、より客観的に自己管理できると思います。

**石川** 経営者にとっては、職員満足度を向上させることが大事です。健康経営はそれにつながるものです。個人が健康になれば家族も喜ぶという社会的な意義もあります。ただ、それが分かっているにもかかわらず、どれくらい重要視するかは経営者によって違ってくるのではないのでしょうか。

## 「働き方改革」と「健康経営」の勤次郎Enterpriseシリーズ(実現コンセプト)



※A: 労務管理データと開発部門データによる経営分析指標  
※B: 労務管理データと販売部門データによる経営分析指標  
※HRM (Human Resource Management): 人的資源管理、企業の経営戦略、事業戦略実現のための人材の調達、配置、開発および人事管理制度などを中長期的視点から戦略的に行うこと



愛知みずほ大学 学長 佐藤祐造氏